

社会福祉法人東の会  
令和2年度 保育所自己評価の項目

カテゴリー・サブカテゴリー	評価項目	項目の選択
<b>1 リーダーシップと意思決定</b>		
1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	①事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している ②経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている ③重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえ意思を決定し、その内容を関係者に周知している	○
<b>2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行</b>		
1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	①事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	
2 実践的な計画策定に取り組んでいる	①事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している ②着実な計画の実行に取り組んでいる	
<b>3 経営における社会的な責任</b>		
1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	①社会人・福祉サービス事業者に従事する者として守るべき法律・規範・倫理などを周知し、遵守されるように取り組んでいる	
2 利用者の権利擁護のために、組織的な取組を行なっている	①利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている ②虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	
3 地域の福祉に役立つ取組を行なっている	①透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる ②地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取組をしている	
<b>4 リスクマネジメント</b>		
1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	①事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	○
2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	①事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	

5 職員と組織の能力の向上			
1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	①事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
	②事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
	③事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
	④職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	○	
2 組織力の向上に取り組んでいる	①組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	○	
6 サービス提供のプロセス(認定こども園)			
1 サービス情報の提供	①利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
	2 サービスの開始・終了時の対応	①サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
		②サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行なっている	
	3 個別状況の記録と計画策定	①定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析及び課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	
②全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している			
③子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		○	
④子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			
4 サービスの実施	①子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	○	
	②子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行なっている	○	
	③日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるように工夫している		
	④日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		
	⑤保育時間が長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		

		⑥子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	
		⑦子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	○
		⑧保護者が安心して子育てすることができるよう支援している	
		⑨地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行なっている	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	①子どものプライバシー保護を徹底している	
		②サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	
6	事業所業務の標準化	①手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
		②サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている。	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動			
	1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行なっている	①事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている	

社会福祉法人東の会  
令和2年度 保育所自己評価の項目

カテゴリー・サブカテゴリー	評価項目	令和2年度評価項目選定理由、着目点など
1 リーダーシップと意思決定		
	1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	③重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえ意思を決定し、その内容を関係者に周知している
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対応の1年となった。第1波による長期の園閉鎖、2波、3波、4波と度重なる感染拡大危機の中で、これまでに経験したことのない状況が次々と発生し、その対応に迫られた。危機管理が必要される状況での、経営層の意思決定、リーダーシップはどうであったのか？成果と課題は何か？		
4 リスクマネジメント		
	1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	①事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
新型コロナウイルス感染症対応を中心に、事業所のリスクマネジメントの取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		
5 職員と組織の能力の向上		
	1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	④職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
新型コロナウイルス感染症対応は職員の生活を直撃した。そのような中で、事業所には一人ひとりの職員に対しての支援が必要となった。その取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		
	2 組織力の向上に取り組んでいる	①組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
新型コロナウイルス感染症対応は、従来の職員間のつながりの形が分断される状況を生み出したが、組織としてのチームワーク、一人ひとりの職員が理解し合うことの重要性を認識することになった。組織力の向上の取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		
6 サービス提供のプロセス(認定こども園)		
	3 個別状況の記録と計画策定	③子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している
保育の質の向上には、保育士・保育教諭等の保育の記録を中心としたPDCAサイクルが重要である。記録の基となる、個々の保育士・保育教諭の保育視点、記録向上への取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		
	4 サービスの実施	①子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
子ども一人ひとりの発達の状態、家庭環境等の育ちの状態に対応した最適な保育の実施は、重要な課題となっている。個別配慮等の保育について、取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？		

<p>②子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対応の一環として、リモートワーク・在宅勤務などが推奨され、新しい勤務形態が進んでいる。子ども一人ひとりの生活のリズムも多様化する中で、それらに配慮した保育について、取り組みはどうであったのか？成果と課題は何か？</p>
<p>⑦子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p>	<p>コロナ感染症から、子どもたちを守るための取り組みはどうであったのか？成果と課題は何か？</p>

	評価項目	令和2年度評価項目選定理由、着目点など	2年度の評価	今後の改善計画
1 リーダーシップと意思決定				
1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	③重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえ意思を決定し、その内容を関係者に周知している	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対応の1年となった。第1波による長期の園閉鎖、2波、3波、4波と度重なる感染拡大危機の中で、これまでに経験したことのない状況が次々と発生し、その対応に迫られた。危機管理が必要される状況での、経営層の意思決定、リーダーシップはどうであったのか？成果と課題は何か？	新型コロナウイルス感染症対応については、関係行政部局情報を、園と法人本部の2ルートで収集することで、情報の収集漏れが起きないように細心の注意を払った。その情報を基に、法人本部と園管理者が連携して内容を吟味し対応を決定して実施した。法人と園で共通する対応、各園による個別対応を組み合わせることで、園に最適な行動を短時間でとることができた。次々と判断が求められる中で、法人本部と園長が連携し、分担することで、最適な意思決定とリーダーシップを図ることができた。	新型コロナウイルス感染症の対応では、感染の危険から本部と事業所の職員の行き来ができない事態となり、事業所の孤立が課題となった。事業所の状況把握、対応の判断、支援のサポートなどができる機能を本部が持つ必要がある。また、今回のような事態や大規模災害などの対応をよりスムーズにするために、Zoomなどの手法を取り入れたい。これらをBCP計画等に組み込むなど、人員、設備、マニュアル等の整備を実施したい。
4 リスクマネジメント				
1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	①事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対応を中心に、事業所のリスクマネジメントの取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	今回の新型コロナウイルス感染症対応においても、これまでに実施してきた感染症対応によって抑え込むことができた。備品在庫が激しくなる事態もあったが、法人本部が主体となり、次の事態を早期に予測し、資材確保もできた。消毒や手洗い、職員・園児・保護者の健康チェックなども、これまでの研修や意識づけによって、個々の職員がしっかり対応することができた。職員の感染が発生したが、独自PCR検査実施による早期の状況把握、独自の業者消毒の実施等、保健所の指示を待つのではなく、早期対応の実施により、拡大を抑え込むことができ、保護者・職員の不安を軽減することができた。	今回の新型コロナウイルス感染では、職員の生活も一変し、生活の孤立化によって不安を訴える職員が多くあった。また、感染した職員も大きな不安を抱える状況があった。職員のメンタル面の状況把握とサポートもBCP計画等に組み込むことを検討したい。
5 職員と組織の能力の向上				
1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	④職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対応は職員の生活を直撃した。そのような中で、事業所には一人ひとりの職員に対しての支援が必要となった。その取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	新型コロナウイルス感染症の拡大によって、第1波の時は、休園指示もあったが、それ以降の緊急事態宣言下でも、通常開園が国からも指示され、園活動を継続した。このことは、園や保育が社会に不可欠のものであることを、改めて自覚することとなった。そこで、職員との話し合いを重ねて、法人理念の実現、保育の質の向上のためには、職員一人ひとりが「職場愛や仲間を大切に思うこと」を理解してもらうように努めた。このような取り組みによって、退職者の減少が見られてきた。をさらに、これまでも課題となっていた園のモデルリーダーの育成については、法人理念を再確認する話し合いによって、その育成を図ることができた。	保育・教育の仕事の価値の再発見、自覚は今回の感染症から得た重要点である。すべてはここからスタートする。課題が生じた場合は、保育・教育の価値を高めていく視点で、一人ひとりの職員に問いかけ、前向きな行動を引き出していきたい。
2 組織力の向上に取り組んでいる	①組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対応は、従来の職員間のつながりの形が分断される状況を生み出したが、組織としてのチームワーク、一人ひとりの職員が理解し合うことの重要性を認識することになった。組織力の向上の取組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	第1波の休園の状況で、多くの職員が、孤立感と自己喪失感を感じたと言っている。そこで、園内研修で、自らの気持ちを伝え、仲間に賛同してもらったり、考えを改めたりする、語り合いの研修を、繰り返し実施した。このような経験から、それぞれの職員は、謙虚さや他者を尊重するなどの人格面での向上が図られ、チームワークと保育に組む姿勢に改善が見られた。	保育園には良好なチームワークが必須であるが、それは、チーム員一人ひとりの意識と人間性によって創られる。他者を認めない姿勢は、他者との軋轢を生み、法人理念の「みんなであつくるみんなの笑顔」とは逆行してしまう。新型コロナウイルス感染症の混乱の中で、職員の園や仲間に対する意識に良い変化が見られている。子どもたちのために良い保育を行うには、自分がどう成長するか？といったことを考える職員を育成していきたい。

6 サービス提供のプロセス(認定こども園)				
3 個別状況の記録と計画策定	③子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	保育の質の向上には、保育士・保育教諭等の保育の記録を中心としたPDCAサイクルが重要である。記録の基となる、個々の保育士・保育教諭の保育視点、記録向上への取り組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	記録は保育を高めるために行うものである。子どもの姿をどのような視点で、どのように捉えるかが、保育の質の向上につながる。保育士の視点を磨くためには、日々の保育で子どもの姿を語りうることから、気づきや発見、次への積極的な保育になる。保育士同士やリーダー・管理者によるコミュニケーションが活発に行われている中から、活動記録も作成されており、保育・教育の質の向上に結び付いている。	日常の記録を作成する段階から、保育教諭同士やリーダー・管理者によるコミュニケーションが活発に行われることで、週案や月案などの計画の立案・見直しに結び付いている。これを継続することが、PDCAサイクルによる質の向上となるので、今後も保育の実践と記録の充実を図っていきたい。
4 サービスの実施	①子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	子ども一人ひとりの発達の状態、家庭環境等の育ちの状態に対応した最適な保育の実施は、重要な課題となっている。個別配慮等の保育について、取り組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	乳児においては、子ども一人ひとりの発達に応じた保育を目指して、育児担当制保育の取組みを行っている。特定の保育士との愛着と信頼関係を基本に、保護者とも連携して、話し合いながら保育を実施した。幼児は、3学年の異年齢保育によって、年齢区分だけでは得られない様々な体験を通して、一人ひとりの成長を目指した活動を行った。さらに、他者を思いやる心を育む活動として、思いやり保育を継続している。子ども一人ひとりの日常の思いやり行動を、葉っぱメモに書き留めて、全員が見える思いやりの木に貼り付けた。全員で一人ひとりの持っている優しい心を見るようにして、お互いを認め合う気持ちや思いやる行動の進展を図った。	担当保育、異年齢保育、思いやり保育などの新しい取組みを開始してすでに数年を経過している。このような活動は、実践と反省、工夫の連続で、進歩はしているが、引き続き多くの努力が必要である。子どもたちのために、保育・教育に熱意をもって今後も継続して取り組んでいきたい。
	②子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行なっている	新型コロナウイルス感染症対応の一環として、リモートワーク・在宅勤務などが推奨され、新しい勤務形態が進んできている。子ども一人ひとりの生活のリズムも多様化する中で、それらに配慮した保育について、取り組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	勤務形態が大きく変化、流動化することを受けて、園での子どもの保育時間や利用日などが多様化してきている。特に、乳児の保育時間の長時間と土曜保育の利用拡大が進展していることが課題となった。低年齢の子どもたちの心身の安心を図るために、特定の保育士との愛着と信頼関係を基本に、保護者とも連携して、育児担当制を導入した。これによって、個々の子どもの生活リズムに配慮し、安定感をもった保育に取り組めてきている	育児担当制保育によって、家庭と園での生活の状態やリズムが、子どもの体調把握・理解に重要であることが分かった。担当保育士は担当だからお世話をするのではなく、心から子どもに愛情を注ぐ気持ちが重要であること、保護者にも、保育士の思いを言葉で丁寧に伝えることで、信頼関係が築かれる。保護者との積極的な連携を図りながら、子どもの健全な成長を促していきたい。
	⑦子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	コロナ感染症から、子どもたちを守るための取り組みはどうであったのか？成果と課題は何か？	感染防止には、2点の視点が必要である。1点が園での感染拡大させない対応を実施すること、2点目が職員が公私両面で感染しないことである。1点目の園での感染防止は、地域の感染状況の把握、3蜜の回避、手洗・うがい・消毒の徹底、園児受け渡しの制限による外部との区分け、体調不良者の早期発見、受け入れ制限、帰園処置などを実施した。2点目の職員の自己管理の徹底は、プロ意識の啓発と具体的な行動制限への注意喚起を早期に継続的に実施した。これらがいかに徹底できるかが感染防止の効果を定めるが、職員と保護者の協力によって、園内での感染拡大は回避することができた。	新型コロナウイルス感染症に限らず、園では日常的に様々な感染症リスクさらされている。感染症拡大防止は最初の発症者で抑えむことに尽きる、そのためには、最初の対応者が誰であっても、正しく、スピーディな対応処置が必要である。それを可能にするには、一人ひとりの職員の自覚と訓練が重要であるので、継続して繰り返しの教育を実施したい。